

高齢者ご夫婦、お一人暮らしの高齢者のみなさんの困り事を聞いてみました 山蔦洋子・和田恵美子（梅寿荘在宅介護支援センター）

1. 背景

現在、生駒市でも高齢者夫婦、一人暮らしの高齢者が多くなっている。関わる利用者の中には身寄りのない方もおられ、ケアマネージャーとしてどう支えていけばよいか、どの様に寄り添って行けばいいのかを改めて考えてみることにした。

2. 目的

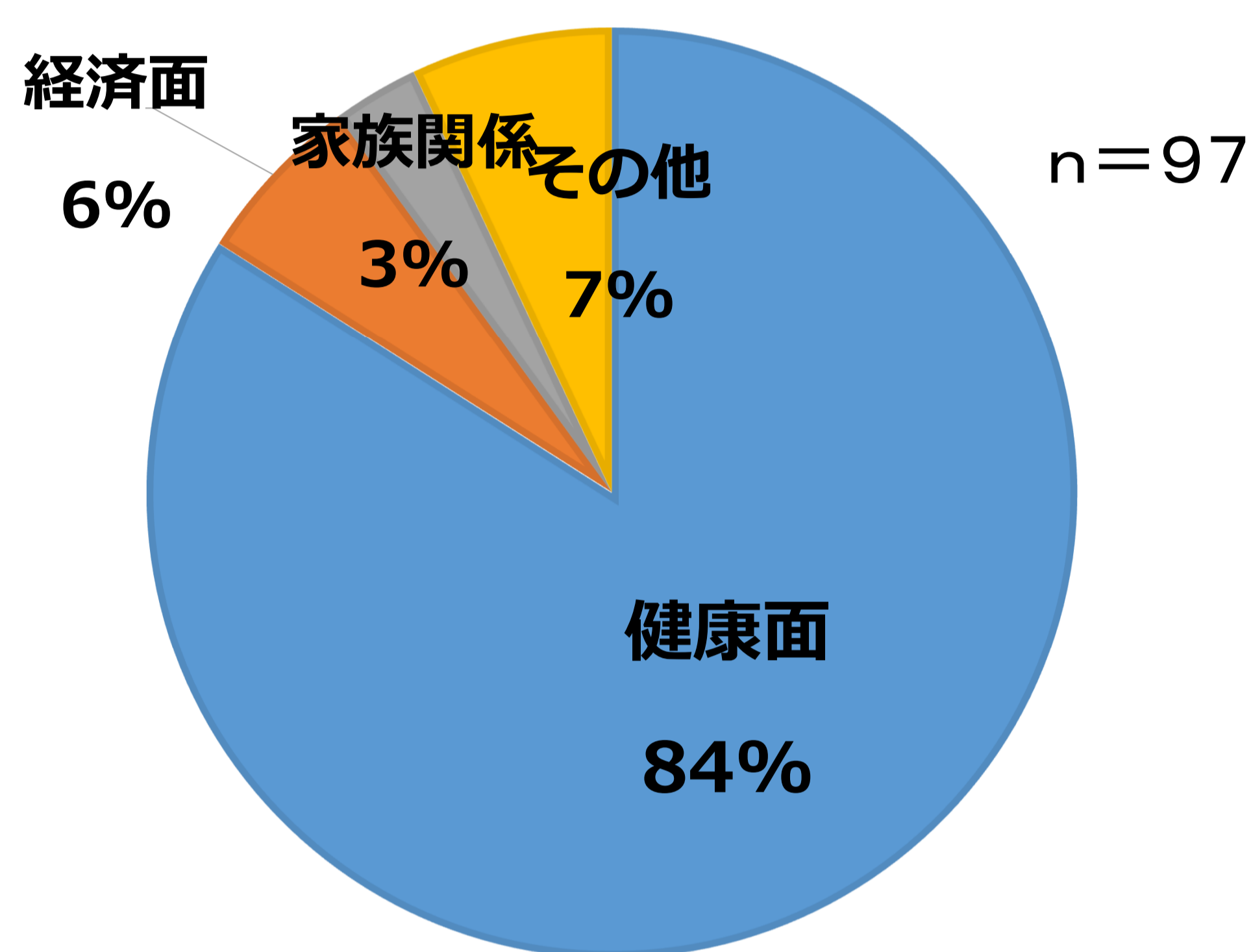
利用者それぞれが今、何を不安に思っているか。困った時に相談できる人がいるか。自分の最終章をどこで過ごしたいと考えているかを知ること、少しでも不安を軽減し思いを実現できるか。早めの対応と準備できる支援について検討する。

3. 方法

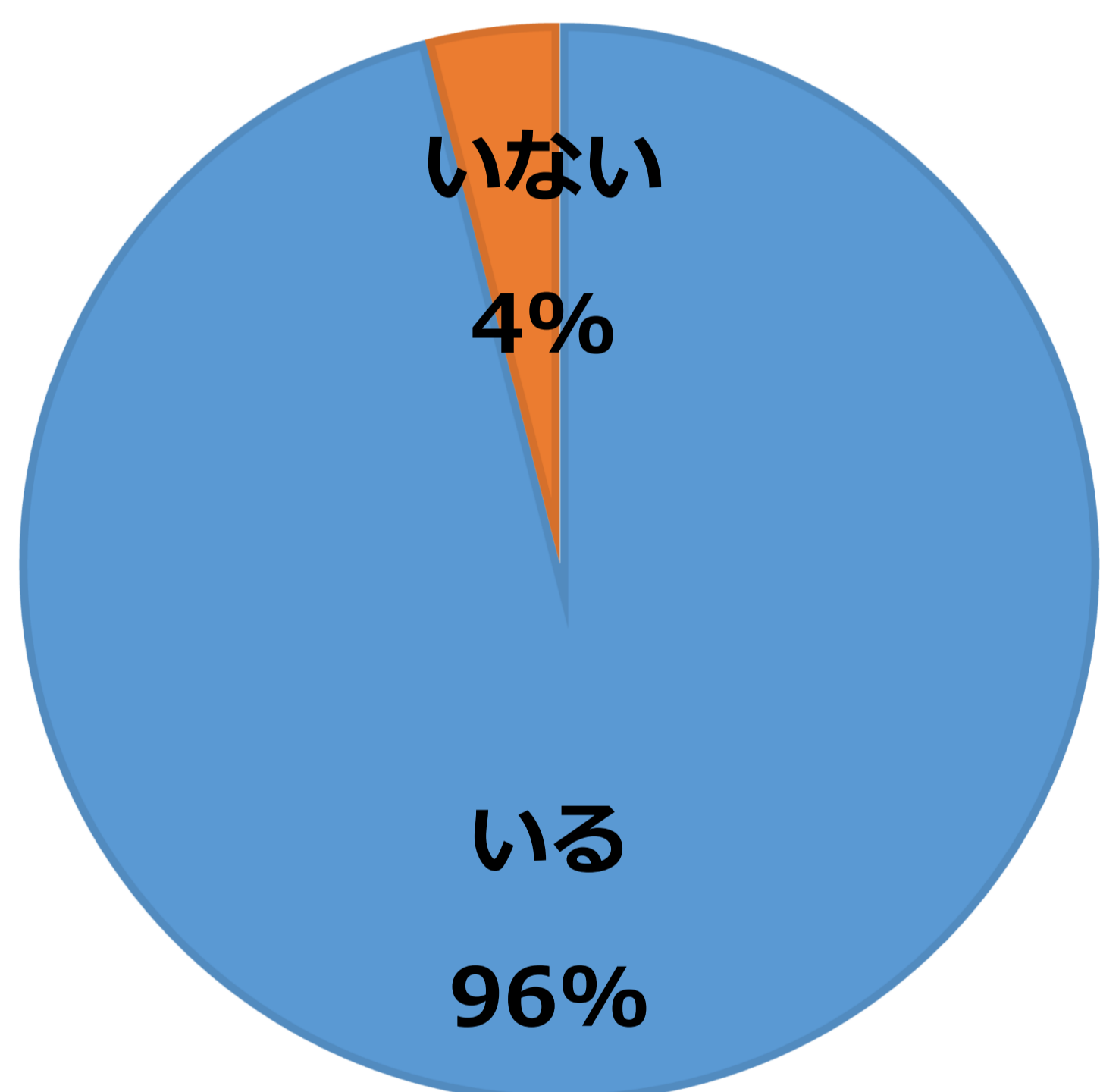
ケアマネージャーが自分の利用者の中から、高齢者夫婦だけの世帯、一人暮らしの高齢者を選び、現在の生活から今後の生活について97名の方にアンケートに協力していただいた。

4. 結果

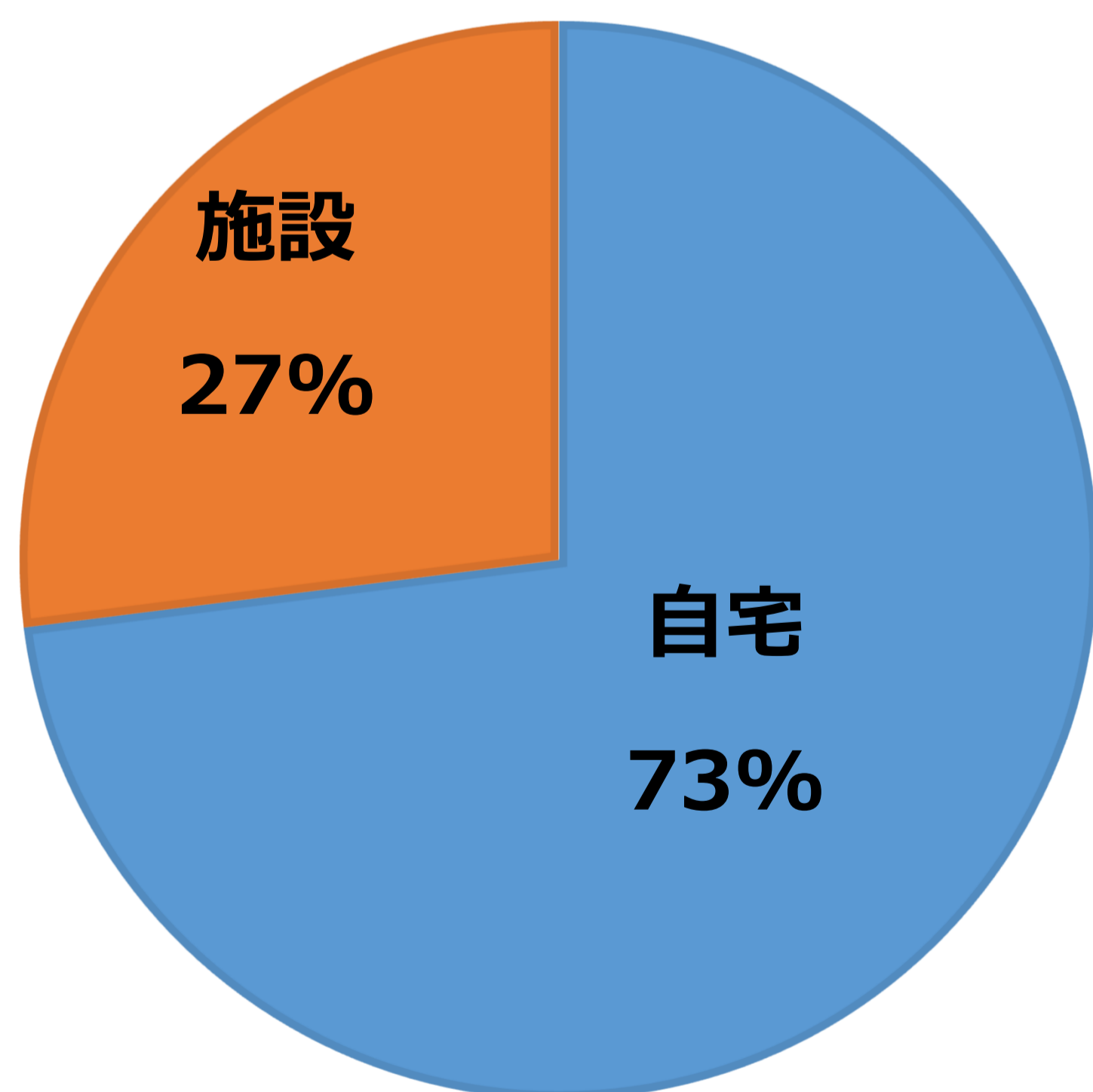
① 一番のお困りごとは何ですか？



② お困りごとを相談する人はいますか？



③ 今後の居場所はどこですか？



結果から見たケアマネの想いと視点

- 健康面**
 - ・自分の持病や体力低下、骨折で動けなくなる
 - ・認知症になったら
 - ・コロナに感染したら
 - ・介護して貰っている家族の健康が損なわれたら
 - 経済面**
 - ・コロナ禍での物価の値上がりの影響
 - ・年金が少ない
 - 家族関係**
 - ・子どもがいないので頼れる身内がない
 - その他**
 - ・一人であることが不安
 - ・なんとなく、心配していない
-
- 相談する人が居る**
 - ・家族・友人・近所・ケアマネージャー・知人・ヘルパー
 - 相談する人が居ない**
 - ・自分の事は自分で決められる
 - ・誰にも相談しない
-
- 自宅**
 - ・最後まで自宅で過ごしたい
 - ・家族が何とかしてくれるだろう
 - ・家族が見るものだ
 - ・自分で生活できなくなったら施設に入所する
 - 施設**
 - ・先々は施設に入れてくれるだろう
 - ・家族に迷惑を掛けたくないので施設に入る

- ・医療との連携（主治医との連携、訪問看護の導入など）
- ・介護保険利用の高額介護費、負担限度額制度の紹介
- ・当事者は現時点の生活だけを見ているので、実感を持っていない
- ・認知症で判断能力の低下
- ・成年後見人制度の紹介
- ・普段関りの少ない家族との連携を持つ
- ・実際、急な変化が起こった時に何処まで動いてもらえる人が居るか
- ・相談する人が居ない人をどうサポートするかが課題
- ・身寄りのない認知症の方の心配に権利擁護、成年後見人の検討
- ・民生委員の協力
- ・本人・家族との考えにズレがある場合もある
- ・先の事を考えるタイミングが必要
- ・施設には種類によって費用が違う
- ・施設のイメージを聞く
- ・金銭面で入れない
- ・施設入所には身元引受人が必要

5. 考察

今回のアンケートの実施で、利用者からは「気持ちの整理のできるいい機会になった」との声もあった。一方、色々な課題も見えてきた。健康面では、利用者自身の病気の心配と共に、家族の健康への気配りも大切であり、コロナ感染の際の対応も高齢者世帯の生活は深刻である。各関係機関、サービス提供事業所等との連携を密にとり、どのように支援して行くか体制作りが必要である。様々な利用者への対応の中で、どこまでがケアマネージャーの仕事なのかも課題になってくる。私たちがケアマネージャーは、利用者の想いを聞きながら、多くの社会資源を利用し、何かあった際の対応が迅速にできるように少し先を見据えた準備をしていけたらと思う。